

牛久：学校周辺に見る自然

第5号 ひたち野うしく小(ひたち野西近隣公園)

2014年5月27日発行

＜ 春の生きもの観察 ～みずべ公園の植物 ①樹木＞

ひたち野うしく小、今年理科支援の始まりは、4年生とのみずべ公園観察でした。4/22, 24にクラスごと、観察時間はたったの30分程度でしたが、学校では見られない生きものも含め、五感を通していろいろな生きもの^{すがた}の姿をみることができました。今回はまず、植物たちの^{しょうかい}紹介です。



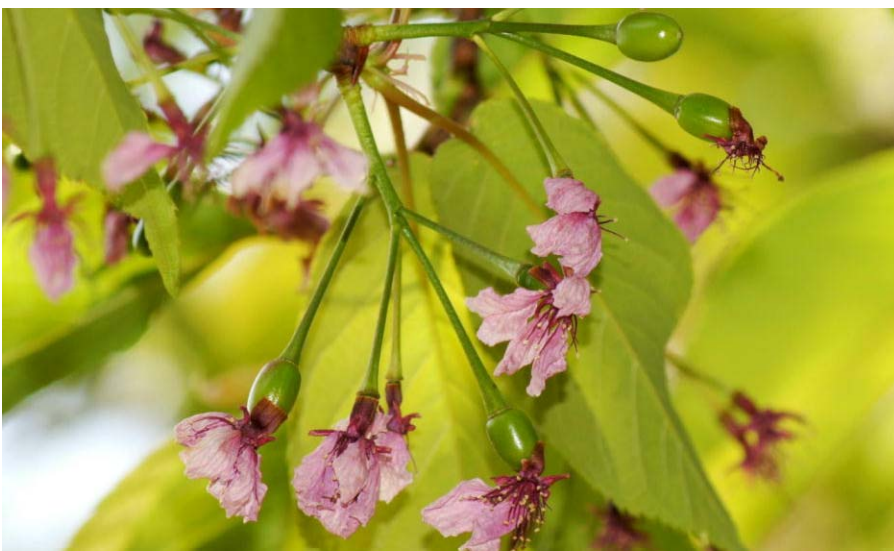
今年は、広場のイヌシデの前からスタートしました。小さな葉のようなものに抱かれて、昨年の果実も一部まだ残っていましたが、花の時期はすでに終わっていて、もう若い実が育っていました。昨年の実をちぎって投げると、カエデの実と同じように、くるくる回りながら落ちましたね。

イヌシデの若い実。公園内には、よく似たアカシデも見られます。



5個ずつの若い実が育つユキヤナギ。

そのとなりには、ほとんど花が終わったユキヤナギがありました。満開時には雪をかぶったようで、枝がやなぎに似ていることからこの名がつけましたが、バラ科の仲間です。やはり若い実が育ち始めています。一つの花に何個ありますか？まん中に5個が集まっていますね。そう、この花には5本ずつの雌しべがあったのです。



同じバラ科の仲間ですが、オオカンザクラは小さな「さくらんぼ」をつけていました。まだ緑色で^{かべん}花弁も残っていますが、もうふくらみ始めていました。

まだ緑色で、ピンクの花弁も残っているが、もうふくらみ始めているオオカンザクラの果実。



根もとがくっついているウワミズザクラとヤマザクラ(左上)。ウワミズザクラは小さな花がブラシのようにたくさん集まり、甘い香りを漂わせる(右上)。根もとのようすや幹の違いを観察したり(右中)、花のにおいをかいだり(下2枚)。

さらに進むと、正面から何やら甘い香りが漂ってきました。そして、白いブラシのようなものをたくさんつけた木が見えてきました。近づくとそれは、小さな花がたくさん、穂のように集まってできていることが分かりました。甘い匂いの正体は、このウワミズザクラの花だったのです。においつられたのか、メスアカケバエがたくさん飛んでいて、蜜をなめていましたね。

同じ根もとから色の違う花や葉がつく枝が見えますが、これはヤマザクラ。すぐそばで、別々のサクラがそれぞれ大きくなってこのようになったのでしょうか。おもしろいね。



甘い、いい匂い～。



そのウワミズザクラとよく似た花が、スタート地点でも咲き始めていました。**イヌザクラ**です。同じように小さな花が穂のように集まっていますが、その穂の下に葉がありません。ウワミズザクラでは葉のついた枝の先に花の穂がついています。**ウワミズザクラに似ているが、花の穂の下には葉がついていない。**

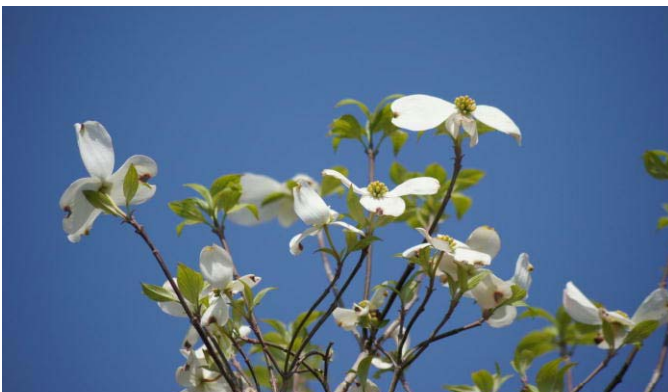


芽吹き始めた、クサギの葉の臭いもかぎました。「どんな臭い？何に似ている？」の問いかけに、「ピーナッツみたい！」、「ゴーヤの臭い」、「体育館のゴムボールの臭い」、「ポテトチップスの臭い」などなど、いろいろな臭いにたとえて答えてくれました。そして臭いの感じ方は人それぞれで、年齢によっても変わることをお話しました。この日は、いろいろな植物の花や葉のにおいをかぎましたが、どのように感じたでしょうね？また、感想を聞かせて下さいね。



クサギの葉は？「ピーナッツみたい！」、「ゴーヤの臭い！」、「体育館のゴムボール！」、「ポテトチップス！」。

最後に、公園の入口に植えてあるハナミズキ。白く大きな花びらのように見えるのは葉にあたるもので、目だつことで花粉を運ぶ虫を集めます。本当の花は、そのまん中に集まっているのです。公園内には、仲間のヤマボウシもあります。くらべてみましょう。【理科支援員：宮内】



白く大きな葉(総苞:そうほう)に囲まれて、まん中に集まって咲くハナミズキの小さな花。